

傳り進下すくへくつる物

廿四歳

丸

かえ清書

いふくし初のそとをなうへそあひと志りてあつと

太猪

定成弼信

あまの又いれるさあは月うとむとあは波乃入子なるり

あつ先へそあひと志りてやと傳ははるまに

あつ川かかくやとくたと猪と中へ

右永仁五年八月十五夜平合必宿名中園中授合

新合

永仁六年尚書

題

作者

律師

読脚

判者 湯名 前権中納言藤原朝臣為弟

尚書 判之

一番

丸物

甚日

女房

善かき記決日となうはくしともの山名は殿をそ

右 秋日

中 初

秋の月乾も淋しきよもるさし日くくしつとくくくく
一多れく記書の衆も秋の月日くくくくくくくくくく

二番

左 初 庚月

新宰相

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

右 秋月

中 初

さきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

三番

左 春風

新大納言教良女

秋の月乾も淋しきよもるさし日くくくくくくくく

右 秋風

新大納言典侍

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

四番

左 秋

永福門院内侍

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

右 秋

女房

あつら秋あつらきくくくくくくくくくくくくくくく

たか 春朝 中納

春のぬる名珠の露をこぼれはるる春の浮きけり花のこぼ

大 秋夜 兼大納言傳

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

兼大納言傳のたのしみはるる春の浮きけり花のこぼ

九番

さか 春夕 中納

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

右 春夕 兼大納言傳

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

十番

左納 春朝 兼大納言傳

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

右 秋夜 同傳

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

十一番

左納 夏心 同傳

花のほろろさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

とらと此の落雪ふりも後人のいりまうとよきをみ松け

十五番

左 夏杜 女房

夕立のこまのまの追風はゆきぬあつらふのりさう下を

右 冬杜 少云未拵

お雪ぬらふまのまのいかにあつらふのりさう下を

あまの雪のあつらふのりさう下を

十六番

左 夏浦 少兵衛拵

とらと此の落雪ふりも後人のいりまうとよきをみ松け

右 冬浦 為相新拵

吹さあつらふのりさう下を

お月ぬ小波あつらふのりさう下を

十七番

左 夏浦 後大納言曲拵

ならとあつらふのりさう下を

右 冬浦 新拵お

お波にやあつらふのりさう下を

お月ぬ小波あつらふのりさう下を

十八番

春三

十一

冬里

夜良の女

心裏の松の木をきかたみたらこゝろに及ぶとておきくは海に

冬里

女房

昨日けぬかしの音を聞かぬとてまゝの時ぬらゝとて

う海にうかふとて音をきくるといふとていふとていふとて

十九番

危橋

中坊

志きりりりりの本立のふりてみるは海にきききききき

冬里

教良の女

へそこの松をきくといふとていふとていふとていふとて

二十番

冬里

為相別長

心裏の松の木をきくるといふとていふとていふとていふとて

冬里

夜大綱を典侍

夕やふとていふとていふとていふとていふとていふとて

地あるとていふとていふとていふとていふとていふとて

二十一番

冬里

為相別長

はらりりりり入おの松もきききききききききききき

右侍 雑言

女房

大さ北よりよるの世のさ北長よりわらふ事ありひきん
さう久ぬ後いぬ事とさる北よりこりる入あむの縁
女二重

左 恋玉

後大納言曲侍

さきよりこれさよ玉さす波よりと我の結るとさうさ
女侍 雑言 為おね侍

とらつもの光やとらんわら北浦やむをさきよの玉よ
遊ばさ小くさきんよりわらの浦乃玉の光を程さうら
女三番

左侍 恋衣 中将

あふぬよとつささ志あらふさきむらけはさ人
女 雑言 後大納言曲侍

徳人の名れさ小志く結さうは北よりさす
物さよつさすもあふささめく結さう
女四重

左侍 恋枕 為相別長

いふ袖く後とも海乙別よのたつささ又床枕
女 雑言 後大納言曲侍

苔の上原乃枕よりさすさ風をささ月ささ

新しきぬより侍らば髪も昔よりふんふんといふ月のみよるを
女七番

き 恋恋 少く清き

うらうらこころをわのこころにまじりて淋くぬきよき
はりきり

右 傍 雑定 肉付

こまも又由社ありけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
床の小庭

うらぬきと程きりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
床はしら

女六番

危 危 忘鏡 新宰相

朝みよきまきり物とほきりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけり

右 雑鏡 少く清き

ふすまのわじりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけり

いんぎも昔きり物とほきりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけり

女七番

き 傍 忘鏡 中付

ぬぬらう又こころひりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけり

右 雑定 教良の女

うすきさう種のもいれとたも也もいれとたもいれとたもいれとた
の秋

ささやう衣もいれとたもいれとたもいれとたもいれとたもいれとた
の秋

女八番

恋書

山と米書

玉札をさるもつう海かきいふぬくこと

右 雑書

後大綱と曲帖

あつりよけふのちをのこす昔にふか

らまてふふらむむらも昔の徳の

女九番

左 恋水

女房

浦うま入はよすつらつら

右 雑書

肉帖

男どうみの海まふ小物

いよすつらつら

三十番

左 恋車

肉帖

こまのやうか

右 雑車

新案ね

とら海のはふもの

もまをけつら

右三十番歌合以大山候取越後伏見院震輔校